

おきなわ鉄軌道ニュースは、鉄軌道を含む新たな公共交通システム(以後、「鉄軌道」という)の計画案づくりの検討状況をお伝えするため、県民の皆さまに配布しています。本特別号は、各市町村役場をはじめとする公共施設等で配布しています。

沖縄県は鉄軌道の計画案づくりを進めています

沖縄県では、県土の均衡ある発展、県民及び観光客の移動利便性の向上、中南部都市圏の交通渋滞緩和、世界水準の観光リゾート地の形成、駐留軍用地跡地の活性化などを図る観点から、那覇～名護を1時間で結ぶ鉄軌道の導入に向け、計画案づくりを進めています。

沖縄県は、基幹的公共交通システムである鉄道を有していない唯一の県となっていますが、戦前は鉄道が存在し、約100年前の1914年(大正3年)12月1日に「沖縄県軽便鉄道」として開業していました。

この軽便鉄道を県民の皆様にご覧いただくことは、計画案づくりに関心を持っていただける大きなきっかけになるものと考えています。

沖縄県軽便鉄道 関係年表



開業時に使用されていた蒸気機関車
所蔵:那覇市歴史博物館



南部(糸満)/沖縄県軽便鉄道 糸満線 糸満駅 駅長と駅員
所蔵:那覇市歴史博物館



那覇(交通)/沖縄県軽便鉄道 那覇駅 所蔵:那覇市歴史博物館



沖縄県軽便鉄道 嘉手納線 嘉手納駅 所蔵:那覇市歴史博物館



20周年記念で飾りたてられた軽便鉄道
所蔵:うるま市石川歴史民俗資料館

大正2年
大正3年
大正10年
大正11年
大正12年
昭和6年
昭和19年
昭和20年

- 1月 通常県会にて那覇～与那原間・国場～糸満間の鉄道敷設案が可決される
- 12月 那覇棧橋方より工事着手
- 6月 那覇～棧橋間で初試運転を行う
- 12月 与那原線(那覇～与那原間)営業開始
- 3月 昭和天皇が東宮殿下(皇太子)として軽便鉄道で那覇・首里へ行啓された
- 3月 嘉手納線(那覇～嘉手納間)営業開始
- 7月 糸満線(那覇～糸満間)営業開始
- 与那原駅舎改築(木造駅舎から鉄筋コンクリート造りのモダンな駅舎に改築)
- 10月 那覇10・10空襲による那覇駅等焼失
- 3月 最終運行(嘉手納線3月23日頃、与那原線・糸満線3月28日頃)



沖縄県軽便鉄道与那原線 モダン与那原駅
所蔵:那覇市歴史博物館

軽便鉄道とは

今から約100年前、大正3年から昭和20年までの約31年間、軽便(けいびん)鉄道と呼ばれる鉄道があり、県民からは「ケイビン」「ケービン」と呼ばれ親しまれていました。本土で走る通常の鉄道より、軌間(線路幅)が小さいのが特徴で、那覇～与那原間、那覇～嘉手納間、那覇～糸満間の3路線を運行し、サトウキビの運搬や、通勤・通学などの交通手段として活躍していました。



沖縄鉄軌道
計画案づくり

*「沖縄県軽便鉄道」は、1919年(大正8年)には「沖縄県鉄道」へ名称が改まりましたが、本紙では統一して「沖縄県軽便鉄道」と表記しています。

沖縄県軽便鉄道 路線図

1872年(明治5年)10月14日、日本で初めて東京(新橋)から横浜間で鉄道が開業しました。沖縄では、その42年後、1914年(大正3年)12月1日、那覇と与那原を結ぶ与那原線が開業しました。1922年(大正11年)3月28日には嘉手納線(那覇～嘉手納)、1923年(大正12年)7月10日には糸満線(那覇～糸満)が営業を開始しました。営業距離の全長は約51.7kmとなり、軽便鉄道としては、全国で3番目の距離を有していました。

安里駅 ASATO St.

軽便鉄道で3番目に乗降客の多い駅で、特に学生の利用が多かったようです。安里駅跡は現在の沖縄都市モノレールの安里駅の近く、安里十字路の高架橋手前の集合住宅が立ち並ぶあたりにあったようです。



那覇駅 NAHA St.

当時の商業の中心地に隣接し軽便鉄道の起点駅として多くの乗降客や物資が行き交っていたようです。那覇駅跡は現在、再開発中のバスターミナルにありました。



古波蔵駅 KOHAGURA St.

嘉手納線へ向かう分岐駅で駅の北側にはアルコール工場があり、その工場では各地の製糖工場から運ばれた糖蜜よりアルコールを製造し、動力源として使っていたようです。古波蔵駅跡は現在の古波蔵交差点付近にあったようです。



糸満駅 ITOMAN St.

軽便鉄道最南端に位置する駅で、現在の糸満小学校付近にあったようです。戦前より糸満は漁業が盛んでしたが、立地の問題や、他の交通機関が充実していたため、漁業関係での利用頻度はそれほど高くなかったようです。



国場駅 KOKUBA St.

与那原線と糸満線を分岐する重要な駅のひとつでした。汽車がすれ違うための引き込み線や、貨車の停車線も敷設されていたようです。国場駅跡は、現在の樋川バス停付近にあったようです。




嘉手納線 那覇駅 ↔ 嘉手納駅
約23.6km



- 有人駅
- 無人駅
- 停留所

嘉手納駅 KADENA St.

軽便鉄道の最北端に位置する駅で現在の嘉手納町役場・ロータリー付近にあったようです。中北部方面の農作物を那覇に輸送する中継地で、本屋・文具店・理容室・食堂・雑貨屋などが軒を連ねており、数多くの人に利用されていたようです。



桑江駅 KUWAE St.

嘉手納線の中では大きな駅の一つで、通りには写真屋など様々なお店が軒を連ねており各駅と比べても交通の要所として大変賑わっていたようです。桑江駅跡は、現在の桑江中学校の前あたりにあったようです。



与那原駅 YONABARU St.

昭和6年、与那原駅は木造駅舎から軽便鉄道で唯一の鉄筋コンクリート造りのモダンな駅舎に改築されました。当時の駅舎は改修されて戦後も役場や農協として使用されていました。



東風平駅 KOCHINDA St.

糸満線では一番乗降客が多かった中心駅です。上り下りの列車の複線線路が設けられ駅前から港川方面へバスが発車していたようです。東風平駅跡は現在の東風平(北)十字路近くの住宅地にあったようです。



高嶺駅 TAKAMINE St.

隣接する製糖工場へのサトウキビの搬入や那覇駅へ砂糖の積み出しが行われ、糸満線の中でも大いに利用されていたようです。高嶺駅跡は、現在の県道82号線沿いの与座集落内にあり広場や住宅地となっているようです。



製糖運搬に大活躍!

軽便鉄道は、多くの住民が利用する重要な交通機関でしたが、島の主要産業である製糖の輸送にも大活躍していました。製糖期になると通常の列車の3~4両貨車を増結し各工場へ原料のキビを運んでいました。各駅別の取扱量は、北部との中継に位置する嘉手納駅が1位で、棧橋荷扱所、高嶺駅、与那原駅と続きます。

写真: 那覇港における黒糖荷役の状況
所蔵: 那覇市歴史博物館



与那原駅舎 復元!

軽便鉄道開業から100周年を迎えた平成26年、与那原駅の駅舎が「軽便与那原駅舎展示資料館」として復元されました。当時の鉄筋コンクリート製の柱9本も一部保存されています。

写真: 軽便与那原駅舎 展示資料館
住所: 沖縄県島尻郡与那原町与那原3148



おきなわ鉄道ニュース特別号は、株式会社おきなわ文庫発行:金城功 著/『ケービンの跡を歩く』、有限会社ボーダーインク発行:加田芳英 著/『図説沖縄の鉄道(改訂版)』、おきなわ散策はんじゃ会 編/『歩いてみよう!おきなわ軽便鉄道マップ』を参考に作成いたしました。

ご意見・ご質問・お問い合わせはこちらまで

沖縄県企画部交通政策課

〒900-8570 沖縄県 那覇市 泉崎1-2-2
TEL:098-866-2045 FAX:098-866-2448
メールアドレス info@oki-tetsukidou-pi.com
(沖縄鉄道構想段階PI)
ホームページ http://www.oki-tetsukidou-pi.com

沖縄 鉄道

検索

